

# 空き地、空き家、 空き店舗活用は

山下 元生 議員

## 答 空き家対策等に取り組む



快適な環境と安心して暮らせるまちへ

**問** 市街地における管理の行き届いていない空き地の環境・衛生上の問題について、現状と対策は。

**市長** 現状は十分認識しているが、民有地の管理は自己管理が原則となっているため、行政での対応には限界がある。

**かんきよう課長** 空き地・空き家の環境問題では、現地調査をした上で、環境美化巡視員とともに、所有者へ適正な管理をお願いしている。

**問** 定住人口の増加のため、八女市で始まった「空き家バンク制度」のようなものを検討しては。

**企画財政課長** 市内で実際に入居可能な空き家物件が、どの程度あるのかを調査したうえで、不動産事業者と連携しながら、空き家バンク制度の検討を進めたい。

## 商店街全体で 市民ニーズを 満たすには

**問** 高齢者等に優しい中心市街地づくりのため、空き店舗対策だけでなく、街全体が一つのコンビニエンスストアになるような空き業種対策が必要ではないか。

**商工観光課長** 高齢者の商店街利用率が高いことから、関係機関とも連携しながら、商店街全体で生活用品が揃うような空き店舗対策、起業者支援等に取り組みたい。

## 産廃場を 引き受ける理由は

弥吉 治一郎 議員

## 答 企業の再生を 支援するため

**問** 肺がん、中皮腫など、死を招く公害物質アスベストが山積みされている日本防火ライトの産廃廃棄物の最終処分場をなぜ市が引き受けるのか。地域住民は地下水の汚染を心配している。

**市長** 平成19年に吉野石膏が日本防火ライトの再生を支援する条件に、市が産廃廃棄物の最終処分場を引き受けることが提示されたからだ。

**鬼丸副市長** 県の水質検査でも問題はなかった。

## 給食資材の納入は 地元優先に

**問** 小中学校への給食物資の納入額は年間約2億円。この内、県学校給食会から1億2,000万円も購入している。給食

会の方が高い物資がある。市内の業者と比較したことはあるか。

**学校教育課長** 給食会と市内業者との価格の比較をした実績はない。

**問** 市内の産業を育成する意味でも納入単価は比べるべきだ。あと5、

000万円でも市内の業者の納入となれば商店街も助かる。

**学校教育課長** 価格調査の面で甘い面があったのは事実だ。24年度から改め、地元産業振興の観点からも地元からの納入部



ヘリポートなどに整備された元産廃処分場